

【学校用】

## ふるさと教育 取組事例

学校名	吉賀町立蔵木小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全	生活科 総合的な学習 の時間 等	くらぎしあわせプロジェクト	【ひと】 地域の方多数 蔵木公民館 社協 蔵木学童 町教委等 【もの】 蔵木地区全域 【こと】 まちたんけん 対話
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵木地区の良さを見つけ、地区への愛着を深める</li> <li>・まちの人と関わり様々な考え方に触れ、自分ができることについて考える</li> </ul>	

### 1 取組の概要

- 学校行事含むさまざまな教育活動を「くらぎしあわせプロジェクト」と称し、それぞれの活動を教科横断的に繋ぎながら学習を進めた。活動例としては、全校で行う「くらぎしあわせツアー」における地域のプレーパークでの活動を通し、体感的に地域の良さを学んだり、和太鼓で地域へのプレ発表やくらフェスでの発表を通し、自ら地域を盛り上げようとしたりするなど主体性を育んだ。
- 生活科ではお芋パーティーやおもちゃ祭りの取組を軸に、地域の中の多様な人と出会うこと、そして自分たちで会を運営することを通して、まちの人との繋がりを深めた。
- 総合的な学習の時間において、中学年では蔵木の自然を守っておられる方に話を聞いたり体験したりする活動を行った。高学年では、吉賀町の自然を中心にまちの良さについて考え、自然を生かした取り組みをされている方にお話を聞き体験したことを通して、自分たち小学生がまちのためにできることなどを考えた。
- 蔵木学童や公民館のいわゆる学校教育課程外の「放課後の活動」と教育課程内の活動の往還が生まれた。

### 2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

#### (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・地域の取組はもちろん、特に「ひと」に触れることを大切にし、その魅力を感じることで、遠い世界の話ではなく自分たちの身近なものとして、自身の在り方に繋げるようにした。そうした出会いを「ミニサクラマスパスポート」に記載し、ポートフォリオとしてためていった。
- ・単発の活動ではなく、さまざまな教育活動や行事が数珠つなぎとなって意味あるものになるように、それぞれの活動の「目的」を校内・関係団体と共有するように努めた。

#### (学力育成の視点から)

- ・主体的な取り組みになるように、委員会活動などにおいても「自分たちで考え、実践する」ことを職員間で共通理解して活動を進めた。

### 3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

#### (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

- ・低学年では、身近な場所で活動したり地域の人と交流したりすることの楽しさを感じ、「もっと知りたい、やりたい」という気持ちを高めることができた。中学年や高学年では、地域のことを考え、誇りをもって働いておられる方々の様子を見たり話を聞いたりしたことで、地域のひとへの魅力を感じ、まちの魅力を改めて感じ、自分たちももっと何かできるのではないかという意欲をもつことができた。
- ・学校だけが学びの場ではなく、地域というフィールドや放課後もすべて学びの時間であるという意識が生まれ、積極的に地域での活動に参画する姿が増えた。

#### (学力育成の視点から)

- ・学んだことや自分の思いを、相手意識をもちながら表現することができるようになった。
- ・ICTの活用スキルが高まり、能動的に学びに活用する姿が見られるようになった。

### 4 課題や今後の展望

ふるさと教育を通して目指す子どもの姿や学校と地域の在り方をより明確に教職員がもち、教育活動を組んでいきたい。活動のねらいや目指す姿、次へのつながりを教職員と児童がしっかりと共有していく必要がある。

